

■児童・生徒の学力の状況

- ・意欲的に授業に取り組んでおり、「全国学力・学習状況調査」の質問紙調査の結果にも、国語の授業内容はよくわかると答えた生徒が84.9%を超えている。しかし、数学に関しては全国及び都の平均値を下回っており、数学に苦手意識をもっている生徒が多い傾向がある。
- ・1学期末に実施した生徒アンケートでは、授業内容はどれくらい分かるかという問いに対して、全校平均で76.0%と肯定的に捉えている生徒が多く見受けられる。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

- ・事象、物事に対して、自分の意見を持ち、それを相手がわかるように説明することができていないため、自分の意見を熟考し、説明する機会をもつこと。
- ・主体的に学習に取り組む態度について、より生徒が調整力を省察できるような振り返りを行い、学習の効果を高めること。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○確かな学力の定着

板橋スタンダードを徹底し、ゴールを明確にしたねらいと振り返りを実施する。生徒が授業において、何を学習するのかを理解し授業に取り組むことができる授業を目指し、確実に知識・技能を習得させる。また、授業のまとめで振り返りを実施し、生徒が授業で学んだことを省察する機会を設け、次時の授業へつなげていく。

○目標実現と課題解決に向けて、粘り強く創意工夫する生徒の育成

「主体的・対話的な深い学び」の実現に向けた授業改善を通じて、生きて働く「知識及び技能」の習得、未知の状況でも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養を図る。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
<ul style="list-style-type: none"> ・目標を明確にし、生徒へ周知すること。 ・振り返りの時間を設け、生徒に一単位時間を省察させ、考えをアウトプットさせること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科を中心に生徒が使用できる語彙を増やし、物事を順序よく説明できるように学習を進めること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の学びを総合的な学習の時間で生かせるように教員が単元の配列について理解すること。 ・振り返りや成果の発表をする時間を設け、学びを定着させること。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
<ul style="list-style-type: none"> ・探究的な取組をらせんスパイラル的に配置し、テーマを小中で検討していくこと。 ・郷土に根付いている「里神楽」について、小中の9年間の中で取り組み、保存と発展について考えていくこと。 ・指導案を小中の教員で検討する機会を設け、より効果的、継続的な方法を見いだしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元配列表について、教員に周知し、理解を深める。また、活用について全員で考え、毎年更新をすることで他教科のカリキュラムについて教員が広い視野をもつ。 ・校内研修で他教科の授業を見学することで、他教科の学習内容について理解を深め、自分の教科に生かす。 ・他教科での学びと学習する事項がつながるように生徒に学習指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クロームブックの効果的な使用を検討、共有するとともに、Society 5.0時代を生き抜くために必要なスキルを生徒に定着させる。 ・主体的に学習に取り組むための授業をデザインし、ミライシード等を利用した個別学習の充実を図る。